

根まんだら

題字 山折 哲雄

この度の東日本大震災で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々の冥福をお祈り申し上げます。

郷土を愛する 人の輪のひろがり

近江八幡市長 富士谷 英正

商工会議所より市民の皆さんと共にまちづくりに取り組むために新たに機関紙が発刊されるにあたりご挨拶を申し上げます。

商工会議所とえば商工関係者の組織であり、一般市民の中には馴染みのない方もおられるのではないかと思います。しかし、商工業の振興、産業振興は、地域社会にとつては大きな関心事であり、まちづくりの主要課題でもあります。とりわけ、本市は歴史的にも楽市楽座の開設、近江商人の輩出など、まちそのものが商いとともに変遷し、発展してきたまちです。この度、商工会議所が産官学民の連携をもとに、本市の有する歴史・文化資産や恵まれた自然を活かしたまちづくりに取り組まれることを歓迎するものです。市としても、まちづくり協議会において進めている地域の皆さんが自らの手でまちづくりに取り組むことに合い通じるものであり、「郷土を愛する人の輪のひろがり」に期待を寄せるとともに、連携、支援をしまいに考えてまいります。

森の根まんだら

宗教学者 評論家

山折 哲雄

いま世界では、人類の生き残りをかけたとり組みがさまざまにおこなわれています。地球環境のことでいえば、「生物多様性」の課題が、「地球温暖化」の危機とともにくり返し語られるようになりました。昨年十月、そのことを討議するための国際会議が名古屋で開かれたのも、そのためでした。

しかし、それでいったい何がわかったのでしょうか。曰く、第一に資源開発のあり方を食つて、絶滅する動物や植物がふえてきた。これからのような絶滅種をどのようにして保護したらよいか。そして第二に、植物や微生物などの「遺伝資源」をつかつて新しい食品や医薬品が開発されてきたが、その金銭的なわけ前を先進国は途上国に提供すべきではないか。何のことはない、利益配分の争奪戦という様相を呈したのでした。

会議が終わってわかったことは、「金」と「国家エゴ」をめぐるむきだし要求と衝突、という「人間多様性」の問題だったので。そのため「生物多様性」というコトバからは、未来の理念とはまったくうらはらの、世俗の利害しか浮かび上つてはきません。国家間、人間同士のあいだで演じられている、血の匂いのするエゴイズムの叫びしか聞こえてはこなかったのです。



山折 哲雄 (やまおり てつお)

1931年米・サンフランシスコ生まれ。東北大学印度哲学科卒業。東北大学文学部助教授、国立歴史民族博物館教授、国際日本文化研究センター所長などを歴任。著書に「宗教の力」(PHP 新書)「日本とは何かということ」(司馬遼太郎共著NHK ライブラリー)他、多数。

トバの残骸が議論されただけだったのでではないでしょうか。そのコトバはもはや現実の中身を抜き去られた、ただの輸入ホンヤク語でしかなくなつたのです。しかしもしもここで、真に「生物」の「多様性」ということを考えようとするならば、なぜ、そのことをわれわれ自身のコトバで表現しようとしなかったのか。どうしていつまでも西洋発の抽象コトバに頼ろうとするのか。われわれの古里をふり返るだけでいいのです。その真の内容にびつたり適合する大和コトバがあるではありませんか。

かつての「鎮守の森」には、多様な植物が繁茂し、すばい小動物たちが走り廻り、小鳥たちのさえずりの声があふいていました。鬱蒼とした樹立ちにかこまれた奥の空間にはカミが祀られ、人々が毎日のように祈りを捧げていたのです。鎮守の森はまさに、生物多様性をそのままに実現する草の根の楽園だったのであります。人間たちを包み込む草の根の宇宙まんだらだったといいいましょう。

「生物多様性」の日本モデルはこの「鎮守の森」であると、なぜその国際会議で主張しなかったのか。しかし日本側の参加者たちのあいだから、誰の口からもそのような声はあがりませんでした。どのようなメディアの報道をみても、そのような発言はみられなかつたのであります。

かつてシエクスピアは名作「ヴェニスの商人」のなかで、強欲な借金とりのシャイロックにたいして、「良き報酬は金にあらず、満ち足りた心にありと申します」と、登場人物にいわせているではありませんか。そういえば、あの老子も「足るを知る」といっています。それがわれわれの社会においては「腹八分」で満足せよ、という価値観につながり、消費とエゴイズムを抑制する「もったいない」という大和コトバを生んだのであります。

「生物多様性」というコトバにだまされてはいけません。

「生物多様性」というコトバにこまかさされてはいけません。

「鎮守の森」の理念を前面に掲げて、ここ近江八幡の地に、新しい共同体、すなわち草の根のまんだら宇宙をつくつていくにはありませんか。

講演のお知らせ

日時 平成二十三年七月十六日(土) 一時半～四時
会場 ホテルニューオウミ
定員 一二〇名
定員になり次第、申し込みを締め切ります

Part 1
生命に学ぶ、自然に学ぶ
まちづくり、ものづくり
講師 ジャニン・ベニス氏 (予定)
アスクネイチャー代表米モンタナ州在住

Part 2
幸せな未来のつくり方
幸せと経済と社会との関係を見つめなおす
講師 枝廣 淳子氏
幸せ経済社会研究所 所長

地球温暖化も生物多様性の危惧も、問題の「症状」のひとつです。こうした多くの問題を起しているのは、有限の地球のうえで、無限の経済成長を求め、構造であるという認識が広がっています。現在の私たちの経済成長は真の幸せにつながる。経済成長を前提としない幸せのあり方、暮らしを一緒に考えませんか？

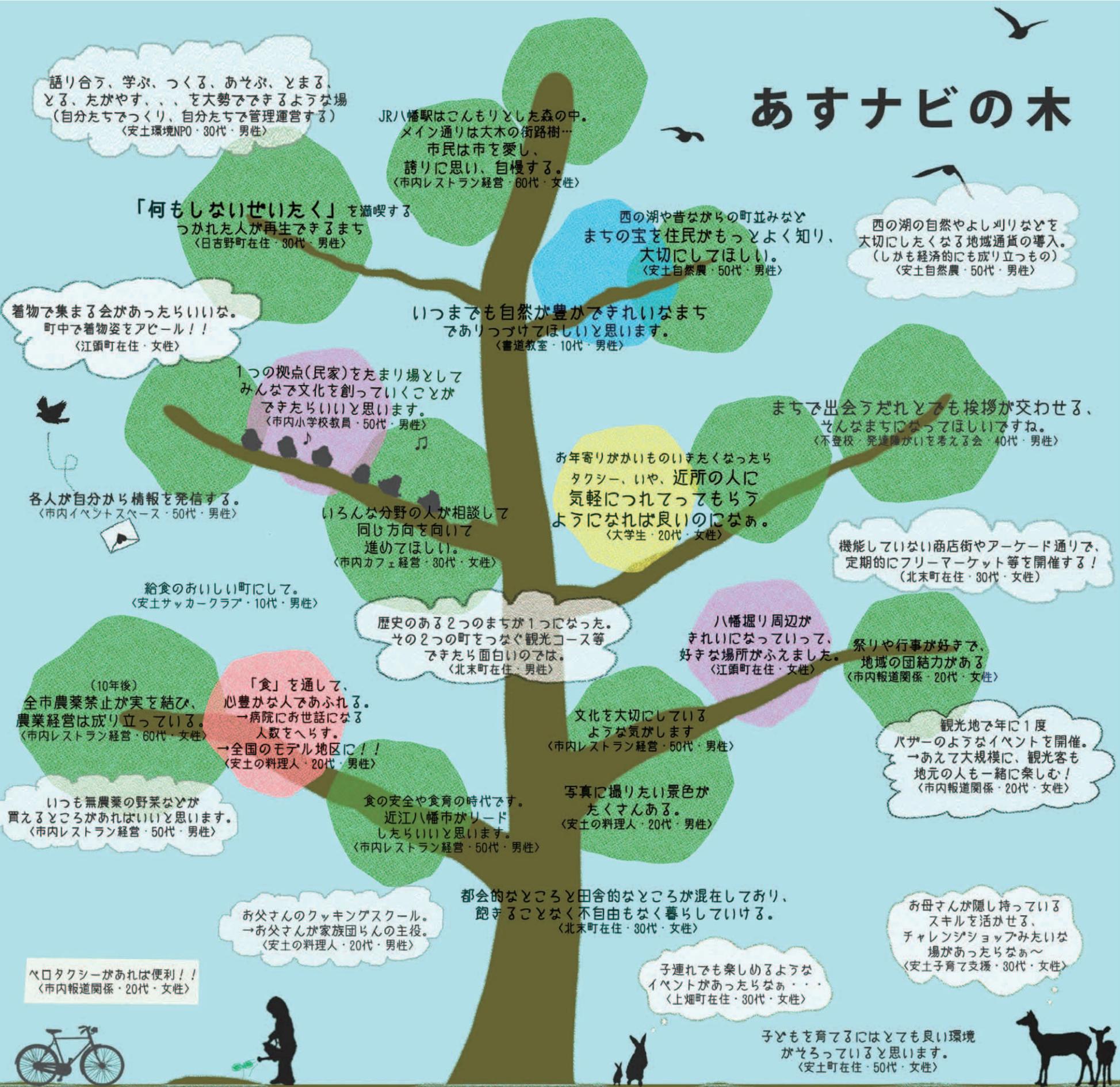


アスクネイチャー(自然に訊く)
新幹線の先端をカワセミのくちばしに似た形状にすることで、走行抵抗を30%減らし、また、トンネルを通る時に発生する騒音を解決することに成功しています。

講演のお知らせ
生き残り戦略か無常戦略か
講師 山折 哲雄氏
日時 平成二十三年五月十五日(日) 一〇時から
会場 近江八幡商工会議所
定員 一〇〇名
定員になり次第、申し込みを締め切ります

詳しくはこちらまで
近江八幡商工会議所
〒523 0843 滋賀県近江八幡市桜宮町二二二-1
TEL: 〇七四八-三三二四-一四一

あすナビの木



語り合う、学ぶ、つくる、あそぶ、とまる、とる、たがやす、...を大勢でできるような場 (自分たちでつくり、自分たちで管理運営する) <安土環境NPO・30代・男性>

JR八幡駅はこんもりとした森の中。メイン通りは大木の街路樹... 市民は市を愛し、誇りに思い、自慢する。 <市内レストラン経営・60代・女性>

「何もしないせいなく」を満喫する つかれた人が再生できるまち <日吉野町在住・30代・男性>

西の湖や昔ながらの町並みなど まちの宝を住民がもっとよく知り、大切にしてほしい。 <安土自然農・50代・男性>

西の湖の自然やよし刈りなどを大切にしたい地域通貨の導入。(しかも経済的にも成り立つもの) <安土自然農・50代・男性>

着物が集まる会があったらいいな。町中で着物姿をアピール!! <江頭町在住・女性>

いつまでも自然が豊かできれいなまちでありつづけてほしいと思います。 <書道教室・10代・男性>

1つの拠点(民家)をたまり場として みんなで文化を創っていくことができたらいいと思います。 <市内小学校教員・50代・男性>

まちで会おうだれとでも挨拶が交わせる、そんなまちになってほしいですね。 <不登校・発達障がいを考える会・40代・男性>

各人が自分から情報を発信する。 <市内イベントスペース・50代・男性>

いろんな分野の人が相談して 同じ方向を向いて進めてほしい。 <市内カフェ経営・30代・女性>

お年寄りがかいものいきたくなったり タクシー、いや、近所の人に気軽につれてってもらえるようになればいいのになあ。 <大学生・20代・女性>

機能していない商店街やアーケード通りで、定期的にフリーマーケット等を開催する! <北末町在住・30代・女性>

給食の美味しい町にして。 <安土サッカークラブ・10代・男性>

歴史のある2つのまちが1つになった。その2つの町をつなぐ観光コース等できたら面白いのでは。 <北末町在住・男性>

八幡掘り周辺がきれいになって行って、好きな場所がふえました。 <江頭町在住・女性>

祭りや行事が好きで、地域の団結力がある <市内報道関係・20代・女性>

(10年後) 全市農業禁止が実を結び、農業経営は成り立っている。 <市内レストラン経営・60代・女性>

「食」を通して、心豊かな人であふれる。一病院にお世話になる人数をへらす。→全国のモデル地区に!! <安土の料理人・20代・男性>

文化を大切にしているような気がします <市内レストラン経営・50代・男性>

観光地で年に1度バザーのようなイベントを開催。→あえて大規模に、観光客も地元の人と一緒に楽しむ! <市内報道関係・20代・女性>

いつも無農薬の野菜などが買えるところがあればいいと思います。 <市内レストラン経営・50代・男性>

食の安全や食育の時代です。近江八幡市がリードしたらいいと思います。 <市内レストラン経営・50代・男性>

写真に撮りたい景色がたくさんある。 <安土の料理人・20代・男性>

都会的なところと田舎的なところが混在しており、飽きることなく不自由もなく暮らしていける。 <北末町在住・30代・女性>

お母さんが隠し持っているスキルを活かせる、チャレンジショップみたいな場があったらなあ〜 <安土子育て支援・30代・女性>

ペロタクシーがあれば便利!! <市内報道関係・20代・女性>

お父さんのクッキングスクール。→お父さんが家族団らんの主役。 <安土の料理人・20代・男性>

子連れでも楽しめるようなイベントがあったらなあ... <上畑町在住・30代・女性>

子どもを育てるにはとても良い環境がそろっていると思います。 <安土町在住・50代・女性>

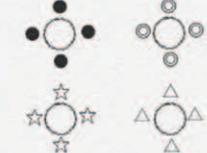
第一回 あすナビ カフェ開催!

カフェでおしゃべりしてる時、突然何かひらめいたことはありませんかありませんか? あすナビ カフェでは、「ワールドカフェ」という手法を用いて、地元のおいしいお菓子と共に、カフェのくつろいだ雰囲気の中でいろんな人の意見をたくさん聞いて、話し合ってみなで「ひらめき」と「つながり」の場を作ります。 近江八幡をもっとワクワクする場所にしたい! 今近江八幡でこんなおもしろいことやってんねん! など、近江八幡に熱い思いを持っている人ならだれでも参加OK! お申し込みは、あすナビ カフェ事務局高木 (hicolour3@gmail.com)まで(4月30日〆切)。

開催日時: 5月15日(日)午後1時から(12時開場)
場所: 近江八幡市商工会議所2階 中ホール
募集人数: 50名
服装: 自由。休日のお出かけ気分
参加費: 500円

ワールドカフェの流れ

① 各テーブル4〜5人で、設定された「問い」について話し合います。(約20分間)



② 「ホスト」1人を残して、残りのメンバーは「旅人」となって他のテーブルに散らばります。



③ 新しいメンバーで前のテーブルの土産話をしてから、再び「問い」について約20分間話し合います。

④ 最初のテーブルに戻り、旅先テーブルの土産話をしてから、改めて「問い」について話し合いを深めます。

わたしたちの未来を考えるWeb『近江八幡あすナビ』を開設!!

近江八幡市商工会議所が中心となって、近江八幡の未来について、意見をオープンに交換できるWebサイト「近江八幡あすナビ」(http://asu8man.jp/)を2011年4月15日(金)より開設します。この「近江八幡あすナビ」では、1年間限定でインターネット上で市民や近江八幡に関心のある人たちが、まちに対する身近な意見を交換できる場をご用意します。

まちづくりのテーマには、①「近江八幡の話題」:観光、食べ物、祭り、文化など、②「自然に学ぶまちづくり」:環境に配慮した生活やまちのあり方・交通、自然界で生きている生物の機能を観察し、モノづくりに応用するバイオミミクリーといった話題、③「農x商x工連携」があります。 さらに、世話人(ファシリテーター)が皆さまからいただいた意見をわかりやすくまとめます。 そのほかにもまちづくりに関するニュース、イベント、著名人のコラム、実際のまちづくりイベントとコラボした企画なども随時、掲載する予定です。

「近江八幡あすナビ」では、地域の未来を地域で考えることで、地域のソーシャルキャピタル(信頼関係)を醸成できる場となる有意義な情報の交換を目指します。そこで「近江八幡あすナビ」は、商工会議所、市民、NPO、大学などによる有志がファシリテーターとなり運営していきます。あなたも近江八幡の未来を一緒に考えてみませんか?運営に参加してみたい方、是非次の連絡先にご一報下さい。

「近江八幡あすナビ」事務局
e-mail:contact@asu8man.jp

加賀 有津子 (かがあつこ)
大阪大学大学院工学研究科教授
1963年大阪府生まれ、大阪大学工学部環境工学科卒業、同大学院博士後期課程修了、博士(工学)
ベンチャー企業立ち上げに参画、阪急電鉄(株)を経て現職。専門は建築・都市計画、環境デザイン、空間情報学。情報ツールを活用した市民主体型の都市・地域再生デザインを手がける。主な著書「参加型社会の決め方」(共著、近代科学社)、「コピキタスは建築をどう変えるか」(共著、彰国社)作品は「加古川市松並小道」、「ラベンダーパーク多可」 「Animation Design about NEXT GENE20 (Venice Biennale 2008)」(いずれも共同)

